

今日のトピック IMFの世界経済見通し改定(2015年1月) 世界経済見通しを下方修正、2015年は3.5%に

ポイント1 原油安の恩恵を投資の弱さがオフセット

中期的な成長期待が下振れ

- 国際通貨基金(IMF)は米国東部時間の19日夜、昨年10月に公表した世界経済見通しの改定を発表しました。2015年と2016年の成長見通しをともに0.3ポイント引き下げ、それぞれ3.5%、3.7%としました。
- IMFは下方修正の主な理由に、「中長期的な成長期待が低下することで投資が弱い」ことを挙げました。投資の弱さなどのマイナスが、原油安の恩恵を上回るとしています。

ポイント2 米国のみ上方修正

2015年の新興国・地域は
0.6ポイント下方修正

- 国・地域別に見ると、2015年、2016年ともに上方修正されたのは主要国では米国のみとなりました。米国は、原油安、緊縮財政の緩和、緩和的な金融政策などにより内需が支えられ、成長率は3%を超えるとされました。
- 米国がけん引し、先進国・地域全体でも2015年の成長率が0.1ポイント上方修正され、2.4%となりました。また、2015年の成長率が新興国・地域全体では、中国、ロシア、原油輸出国の下方修正から、0.6ポイント下方修正されました。

今後の展開 金融・財政政策などにより、潜在成長率の引き上げが喫緊の課題

- IMFは今回、原油価格の見通しが不確かであることをリスク要因の最初に指摘し、成長率の上振れも下振れも有り得るとしています。その他、世界経済の下振れリスクとして、主要国・地域の経済の下振れや米国の金利正常化プロセス、新興国・地域のマネーフローの反転で金融市場の変動の高まること、原油輸出国・地域の対外収支の悪化、地政学リスクなどを挙げています。
- IMFは、潜在成長率の引き上げが喫緊の課題としています。構造改革が多く国や地域にとって必要で、インフラ投資に加えて、金融・財政政策の必要性に言及しています。原油価格の下落は物価見通しの下落や補助金の削減を通じて財政負担を軽減させ、金融・財政政策をより講じやすくなっていると見られることから、各国・地域の積極的かつタイムリーな政策対応が期待されます。

IMFの世界経済見通し(2015年1月) (%)

	2015年		2016年	
	成長率	修正幅	成長率	修正幅
世界全体	3.5	▲0.3	3.7	▲0.3
先進国・地域	2.4	0.1	2.4	0.0
日本	0.6	▲0.2	0.8	▲0.1
米国	3.6	0.5	3.3	0.3
ユーロ圏	1.2	▲0.2	1.4	▲0.3
ドイツ	1.3	▲0.2	1.5	▲0.3
新興国・地域	4.3	▲0.6	4.7	▲0.5
中国	6.8	▲0.3	6.3	▲0.5
アセアン	5.2	▲0.2	5.3	▲0.1
インド	6.3	▲0.1	6.5	0.0
ブラジル	0.3	▲1.1	1.5	▲0.7
ロシア	▲3.0	▲3.5	▲1.0	▲2.5
想定平均原油価格の前年対比騰落率	▲41.1		+12.6	

(注1) 上記アセアンはタイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、ベトナムの5カ国。
 (注2) インドは年度。
 (注3) 修正幅は前回10月の見通しからの変化幅。
 (出所) IMFの発表を基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2014年12月24日 2015年の米国経済の見通し
 2014年12月22日 2015年の日本経済の見通し

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。